

# 会務報告

## ◇ 委員会報告 ◇

### ● 大会委員会

◆ 5月21日・22日両日、東京国際大学との共催で、2011年度日本語教育学会春季大会が同大学第1キャンパスで開催された。今回は、受け付けた参加者が860名、発表者・招待者・関係者が83名で、総計943名の参加があった。

1. 1日目は、開会式に続いて表彰式が行われ、論文賞に宇佐美洋氏、奨励賞に同じく宇佐美洋氏、学会賞に嶋田和子氏が選ばれ、それぞれ賞状・賞品が授与された。各受賞者から受賞スピーチがあった。
2. 開会式・表彰式に引き続き、三つの会場で6件のパネルディスカッションが行われた。各パネルとも熱心な発表、討議が行われた。
3. 懇親会は、キャンパス内の第1食堂で行われた。120名の一般参加があった。
4. 2日目には、四つの会場で31件の口頭発表、三つの会場で18件のポスター発表、一つの会場で4件のデモンストレーションが、それぞれ行われた。どの分科会も盛況であった。
5. 両日にわたり、大会会場にて学会主催による東日本大震災義援金募金活動が行われた。

◆ 2011年5月22日、東京国際大学第1キャンパス6号館613室において2011年度第1回大会委員会が開かれた。今回は、委員改選時にあたり、現委員と新委員の合同の委員会として開催した。主な議題と審議概要は、以下のとおりである。

1. 2011年度秋季大会の企画・運営について  
開催校の谷守正寛氏・御館久里恵氏より、準備状況についての報告があった。  
学会の調査研究委員会からのセミナー開催の要望について、大会2日目終了後の2時間の枠を提供することを承認した。
2. 今大会実施状況中間報告  
特に大きな問題はなかった。機器の使用について持参したコンピュータの使用希望があったが、コンピュータは基本的に設置されているものを使うよう対応した。
3. 2012年度秋季大会の会場について  
北海学園大学（札幌市）の予定。すでに大学内で実行委員会が発足している。2012年度秋季大会の日程は、2012年10月13日（土）14日（日）の予定である。
4. 委員長の選出  
新委員による互選の結果、砂川裕一氏が委員長に選出された。副委員長については、次回委員会までに新

委員長が推薦し新委員会の承認を得ることとした。

### 5. その他

ポスター発表およびデモンストレーションの発表形態について、現委員を対象に2回目のアンケートを実施し、その結果を次回の委員会で報告する。

### 6. 今後の委員会日程

次回の委員会は、2011年7月10日（日）に東方学会本館において行う。

（二通 信子）

◆ 2011年7月10日（日）、東方学会本館2階会議室において、2011年度第2回大会委員会が開催された。主な議題と審議内容は以下のとおりである。

### 1. 副委員長の指名

委員長により、再任委員から河野俊之氏、新委員から庵功雄氏、野山広氏の合計3名が指名された。

### 2. 2011年度春季大会の反省について

アンケート結果（学会参加者数943名、アンケート回答者14名）を参考に、春季大会について改善点を探った。発表形態それぞれについて疑問点や改善すべき点などが指摘された。今後発表形態WGで更なる検討をするとともに、改善できる点については秋季大会から対応を工夫することになった。

### 3. 2011年度秋季大会（米子コンベンションセンター）の進捗状況について

大会開催準備、また新しい試みとしての大会前2日間ワークショップの準備や教材・書籍紹介ブースの準備が順調に進んでいることが報告され、資料を基に使用教室や当日のタイムスケジュールの確認などが行われた。また、併せて秋季大会特別企画パネルの承認と時間枠の決定も行われた。

### 4. 2011年度秋季大会発表者の選考について

審査の結果、口頭発表31件、ポスター発表12件、パネルディスカッション4件、デモンストレーション1件を採用した。審査後、不採用者に送付するコメント執筆担当者、コメント取りまとめ担当者、発表会場の割振り案作成担当者などを決定した。また、大会委員は発表の代表者や発表そのものを自薦するという方針を取っているが、今後この制約の是非について検討することになった。

### 5. 2012年度春季大会以降の企画・運営について

2012年度春季大会及び秋季大会の会場校について委員長から報告があった。また、2013年度春季大会以降の会場校については、複数の大学に打診していることが報告された。併せて、コンベンションセンター等の利用も含めて会場校の探索について委員長から協力が求められた。

### 6. 発表形態検討WGの議論の進捗状況について（第3回中間報告）

発表形態それぞれについての検討状況が報告され、今後さらに検討を続けることになった。

## 7. 今後の委員会日程について

次回の委員会は、2011年8月27日(土)に東京都内において行う。(場所は未定)。

(砂川 裕一)

## ● 学会誌委員会

6月25日(土)午後2時~5時、早稲田大学22号館にて委員会を開催した(出席16名,事務局員1名)。7月から新たに編集委員となる秋元美晴氏と加納千恵子氏がオブザーバーとして参加した。7月以後、委員会は編集委員(10名)と主査委員(30名)に分かれることになる。

7月からの新体制について、149号の進捗状況、150号の特集の進捗状況について、今年度科研費(70万円)が採択されたこと、第6回林大論文賞受賞の副賞は受賞者2名で分配することになったことを報告したあと、以下について審議した。

1. 次期委員長に山内博之委員を選出した。現副委員長の西口光一委員は留任となった。もう一人の副委員長は山内新委員長が指名する予定。
2. コラム「海外の学会から」に掲載する学会を選んだ。
3. 150号国際研究大会(天津)の報告記事の構成案を承認した。
4. 150号投稿論文(投稿総数44本(研究論文31,調査報告7,実践報告3,研究ノート2))を審査した。
5. 学会創立50周年記念号となる153号(2012年12月発行)に掲載する「学会誌の回顧と展望」という特集について意見を交換した。
6. 来年度科研費申請について意見を交換した。

次回委員会予定:2011年11月5日(土)

(廣瀬 正宜)

## ● 研究集会委員会

### ◆ 研究集会報告

#### 1. 2010年度第11回研究集会(関西地区)

日時:2011年3月12日(土)13:00~17:10

会場:日本学生支援機構 大阪日本語教育センター

参加人数:89名(会員47名,一般42名)

内容:研究発表15件(講演は地震の影響で中止)

前日の地震の影響で交通事情が悪く、予定していた講演者が当日時間内に来られなくなり、やむを得ず講演は中止とした。参加者からも残念という声が多く聞かれた。講演者には次回以降に講演をお願いすることとした。その後の研究発表は予定通り行った。研究発表は15件で、応募が多かったため、4会場に分かれた。各会場とも幅広いテーマについて熱心な発表と活発な議論が行われた。次回は甲南大学で9月に行う予定である。(報告者:清水孝司)

#### 2. 2011年度第1回研究集会(九州地区)

日時:2011年6月4日(土)13:00~17:30

会場:立命館アジア太平洋大学

参加人数:118名

内容:講演,研究発表16件

講演講師:松見法男氏(広島大学)

題目「教育現場から実践研究への道—「実践報告」論文には何が必要か—」

2011年度第2回研究集会・会員研修(九州地区)

日時:2011年6月5日(日)10:00~16:30

会場:立命館アジア太平洋大学

参加人数:58名

内容:ワークショップ

研修講師:松見法男氏(広島大学)

題目「実践研究における統計処理—分散分析をやってみましょう—」

研究集会は4つの分科会に分かれ、計16本の研究発表があり、続いて松見法男氏(広島大学)による講演が行われた。研究集会前には事前研修会が行われ、山田智久氏(佐賀大学)が「デジタル教材の開発と活用」について講演を行った。この研修には39名の参加者があった。翌日の会員研修では、松見法男氏によるワークショップが行われ、58名が参加した。

研究発表の参加人数は予想をはるかに超え、発表は授業に役立つものが多く、活発な質疑応答が交わされた。松見法男氏による教師の実施報告を論文レベルにどのようにまとめ、情報データをいかに分析するかについての講演とワークショップは非常に有意義であった。参加者のアンケートによると、本研究集会は、日々の指導から得られる情報を体系的かつ客観的に把握することの重要性を再考し、それを実践するために必要な基礎知識を学ぶ機会となり、今後の指導と研究に非常に役立つというコメントが多かった。

(報告者:梅田千砂子)

#### 3. 2011年度第3回研究集会(中部地区)

日時:2011年6月11日(土)10:00~17:00

会場:愛知教育大学

参加人数:150名

内容:講演,研究発表16件

講演講師:中井陽子氏(東京外国語大学)

題目「中上級学習者のための会話教育—インターアクション能力育成を目指した『研究と実践の連携』—」

今年度は研究発表と講演が企画された。今回の研究発表は、昨年に比べると本数が少ないものの、県外・海外からの発表もあった。内容は、談話、意味・文法、習得、教室活動など多岐にわたり、各会場ともに活発な質疑応答が交わされた。

講演は、東京外国語大学の中井陽子氏による、実践的会話教育についてのものであった。背景となる理論的な説明から始まり、動画ファイルをふんだんに使って、実際の授業の様子をわかりやすく紹介するなど、

現場の教師にとっても有益な内容の講演であった。休憩を挟んで、質疑応答の時間も設けられ、多様な意見や質問が交わされた。

例年のように中部地区ならではの屋食交流会も設けられた。尾崎明人日本語教育学会会長も足を運んでくださり、和やかな雰囲気の中で有益な情報交換が行われた。

(報告者：内山 潤)

#### 4. 2011年度第4回研究集会（北陸地区）

日時：2011年6月18日（土）13:00～17:15

会場：福井大学

参加人数：72名（会員26名，一般46名）

内容：ワークショップ，研究発表3件

ワークショップ講師 池上摩希子氏（早稲田大学大学院日本語教育学研究科）

題目「JSL児童生徒に対する日本語指導と教科学習支援の関係—教科学習を意識した「読み書き」支援活動を考える—」

参加者数が72名と北陸地区（福井）にしては多く盛況であった。研究発表は、金沢大学大学院生2件と海外からの応募1件であった。応募件数が少ないことが課題である。ワークショップは、関心の高いテーマに加え、活発なグループ活動参加が促されたことにより、新しい知見が得られたとの声が参加者から多く寄せられた。

(報告者：桑原陽子)

#### 5. 2011年度第5回研究集会（北海道地区）

日時：2011年7月3日（日）10:00～16:30

会場：藤女子大学北16条キャンパス

参加人数：69名（会員29名，北海道日本語教育ネット

ワーク11名，一般29名）

内容：ワークショップ，研究発表4件

ワークショップ講師：庵功雄氏（一橋大学）

題目「『やさしい日本語』で話す／書くために必要なこと—文法から考える—」

研究発表では口頭発表4件が行われた。内容は副詞表現について、シンガポールの日本語教室の現状、文法を可視化した教材の開発、協働プロジェクトの実践報告と多岐に渡り、活発な質疑応答が行われた。ワークショップでは、まず参加者を10のグループに分け、各グループで公文書を外国人にわかりやすく書き換える活動を行った。その後、講師の庵功雄氏より、補償教育の対象としての「やさしい日本語」に関する研究が紹介され、それに基づく地域型日本語教育や「やさしい日本語」が目指す社会についての講演が行われた。最後に質疑応答を行うとともに、各グループの公文書の書き換え案をスクリーンに映しながら、講師と参加者の間でディスカッションが行われた。

(報告者：大賀京子)

### ◆ 会議記録

#### 1. 研究集会全体委員会

2011年5月21日（土）、春季大会会場の東京国際大学において、2011年度第1回研究集会全体委員会が開かれた。主な議題は以下のとおりである。

##### (1) 今後の研究集会委員会について

2011年7月1日の新任期より研究集会委員会の体制と運営について以下となることを確認した。

- ・中央委員会の位置づけを他地区と並列とし、関東地区と名称を変更する。
- ・各地区の代表者を1名決め、研究集会の活性化を図るため、おおむね年1回学会事務局にて代表者会議を開催する。また、代表者会議において、研究集会委員長を選出する。
- ・春季、秋季大会時の年2回の全体会議は今後も開催し、全体会議については今まで通り、一人でも多くの地区委員が参加し地区間の情報共有をはかる。
- ・各地区委員の選考および人数は各地区に委ね、若手委員も積極的に推薦してもらおう。また、各地区の研究集会内容については、今後も各地区研究集会が中心となってその地区に合った企画・運営を行う。
- ・実践研究フォーラムについては、今後も継続して関東地区所掌業務として行う。関東地区委員は実践研究フォーラム実施のために、実践研究フォーラム実行委員長を選出する。
- ・各地区の都道府県割振りを確認し、山梨県については、関東地区とすることになった。

##### (2) 各地区研究集会報告

各地区より、昨年度後半の研究集会開催についてと今年度の予定、課題や提案等の報告があった。

なお、次回会議は秋季大会会場の米子コンベンションセンターにて10月9日（日）に開催の予定。

#### 2. 研究集会関東地区委員会（実践研究フォーラム実行委員会）

6月2日（木）、7月1日（金）、7月19日（火）、日本語教育学会会議室および東方学会会議室において、2011年度第1回～3回研究集会関東地区委員会が開かれた。主な議題は以下のとおりである。

○2011年度第1回関東地区研究集会（6月2日）

##### (1) 全体委員会討議事項について

委員交代確認・次期関東地区代表者およびフォーラム実行委員長の選出

##### (2) 2011年度実践研究フォーラム

各ラウンドテーブル（以下RT）進捗状況・ポスターセッション・パネルセッション・予稿集・全体進行

○2011年度第2回関東地区研究集会（7月1日）

##### (1) 新委員の加入

関東地区正副代表者、正副実践研究フォーラム委員長、新委員のフォーラムでの担当割振りを決定。

##### (2) 2011年度実践研究フォーラム

各RT進捗状況・ポスターセッション・パネルセッ

ション・予稿集・全体進行・会場等  
○2011年度第3回関東地区研究集会（7月19日）  
(1)2011年度実践研究フォーラム

当日の全体進行・担当・会場等  
(2)2011年度WEB版実践研究フォーラム報告  
応募要項の確定、刊行スケジュール等  
(3)2012年度実践研究フォーラムについて  
(4)関東地区委員会会議日程

なお、次回会議は東方学会にて10月18日（火）に開催の  
予定。

（堀井 恵子）

## ● 教師研修委員会

### ◆2011年度の研修予定

#### 1. デジタル教材作成（仮称）

開催日：2011年5月または6月に予定していたが、  
会場校の都合により延期となった。延期日時は未定。

場所：神戸大学予定

#### 2. 夏季集中研修（2日間連続講座）

開催日：2011年8月6日（土）・7日（日）

場所：（財）海外技術者研修協会（AOTS）

#### 3. 日本語教育と社会 言語政策（仮称）

開催日：2011年11月12日（土）予定

場所：東京予定

#### 4. カリキュラム評価（仮称）

開催日：2012年1月予定

場所：東京予定

#### 5. 専門日本語教育ワークショップ（仮称）

開催日：2012年3月予定

場所：東京予定

#### 9. オンラインIT講座（仮称）

開催日：2012年1月～3月予定

※「日本語教師研修」についての参加募集詳細は決定次第、  
日本語教育学会ウェブサイトに掲載します。

<http://www.nkg.or.jp/menu-kenshu.htm>

### ◆会議記録

#### 1. 2011年度第1回教師研修委員会（4月9日）

- (1)2010年度研修報告
- (2)2011年度研修計画
- (3)2011年度夏季集中研修
- (4)統計書籍について

#### 2. 2011年度第2回教師研修委員会（6月24日）

- (1)2011年度夏季集中研修準備状況報告
- (2)2011年度研修実施について  
新委員を迎え、各研修の担当者を決定した。
- (3)教師研修委員会のあり方について
- (4)次期委員長、副委員長の選出  
選挙により古川嘉子委員長が選出され、委員長の指名

により副委員長は齋藤伸子氏となった。

#### (5)2011年度会議日程調整

なお、次回会議は日本語教育学会事務局会議室にて10月  
1日（土）に開催の予定。

（嶋田 和子）

## ◇ 事務局からのお知らせ ◇

### ● 2011（平成23）年度会費納入のお願い

当学会の事業活動の円滑な推進を通して、会員各位の  
教育・研究に資すること、並びに、海外における日本語  
教育活動との交流や支援に寄与することが一層求めら  
れています。学会の活動の重要性をぜひご理解賜り、会  
費納入にご協力くださいますようお願いいたします。

ご送金の際は、必ず会員番号を通信欄に明記してくだ  
さい。

#### <会費納入方法>

○郵便振込 00140-5-64631

○みずほ銀行新橋支店（普）130-880757

○現金書留

○クレジットカード支払（海外在住者のみ受け付けま  
す。事務局にお問い合わせください）。

### ● 年度会費自動引落システムのご案内

日本国内に銀行口座等をお持ちの方々を対象に、「年  
度会費の自動引落システム」をご用意しております。全  
国の金融機関（銀行・信用金庫・信用組合・郵便局等）で  
ご利用いただけます。詳しくは事務局会員サービス係  
([kaiin@nkg.or.jp](mailto:kaiin@nkg.or.jp))までお問合せください。

#### <年会費>

○普通会員 10,000円（年額）

○賛助会員 一口50,000円以上（年額）

### ● 住所等の変更について

次頁の書式にご記入の上、郵便または下記のいずれか  
の連絡先にお知らせください。

FAX : 03-5216-7552 / E-mail : [kaiin@nkg.or.jp](mailto:kaiin@nkg.or.jp)

なお、メールアドレスを新設された方や、メールアド  
レスを変更された方は、①会員番号②氏名③名簿への記載  
の可否を、メールでお知らせください。タイトルは「学会  
員メールアドレス登録」としてください。電話での連絡は、  
ご遠慮願います。

### ● 学会誌メールアドレスについて

学会誌に関連するお問合せは、学会誌専用アドレスに  
ご連絡ください。

学会誌専用 : [gakkaishi@nkg.or.jp](mailto:gakkaishi@nkg.or.jp)